

# 読書のすゝめ

その5 R2 4 / 13

## 新任の先生紹介④

平山茂男 校長先生



『果しなき流れの果に』小松左京  
今回紹介する「果しなき流れの果に」(原題ママ。送り仮名「て」は付かない。)は、「日本沈没」で有名なSF作家・小松左京の、約四百五十ページ(文庫本)にもおよび長編小説です。関西地方の古墳から出土した「永遠に砂が落ち続ける砂時計」を発端として、主人公が時間(タイムトラベル)や空間(宇宙)を越え、未来人(宇宙人)からの干渉を受けながら、その謎を探っていくという、ミステリータッチの冒険活劇です。



私は大学で「素粒子物理学」という学問分野を専攻しました。そもそも、相対性理論や素粒子論などという分野に興味を持ったのは、この小説に登場する、砂時計(オーパーツ)を研究対象として追いかけている、世間の常識からかけ離れた思考や行動をする二人の物理学者に、何かしらの「カッコ良さ」を感じたからではないかと自分なりに思っています。

さらに、古代史にも興味を持っていて、これもまた、この小説の舞台の一つになってきている「古墳」に魅力を感じ、インスパイアされた結果ではないかと思っています。皆さんも、そんな、人生を方向付けるような「本」と出会えることを願っています。



堀米康弘先生 (1学年 年次付・地歴公民)



『三鬼 三島屋変調百物語四之続』宮部みゆき

宮部みゆきといえば現代小説のサスペンス・ミステリーが代表作となっていていますが、私は彼女の時代小説が好きです。読んでみると江戸時代の商家や寒村にタイムスリップして、この歳になってもドキドキしてしまいます。怪談話を読んでみたいと思う人におすすめです。おもしろかったら『三島屋シリーズ』の事始め『おそろし』『事続』あんじゅう、三之続『泣き童子』もどうぞ！



阿部浩先生 (1学年 年次付・地歴公民)



『生き抜く力 ボクがキミに伝えたい50のことば』為末大

高校時代はとかく色々なことで悩む機会が多いものです。そういう君たちに、元陸上競技400メートルハードル選手で日本記録保持者の為末大さんが様々な経験をとおして得たことや、実践したことをわかりやすく50の言葉にまとめたこの本は、読めば誰もが「なるほど」と納得できる言葉がきつと見つかると思います。



短い言葉で表現されているので、高校生はもちろん、小中学生や保護者の方にも非常に読みやすい本になっていきます。私自身、高校教員として40年近く働いてきましたが、この本を読むと同感できる文言が多くありました。ぜひ機会があれば書店等で手に取って読んでみてください。

## 図書委員募集中!



特別委員会の中に「図書委員」があります。カウンター当番の他に図書の管理として蔵書点検・本の装備、またPOP作成やビブリオバトルの運営などに携わります。県外への文化施設への『文学散歩』もあります。本好きはもちろん、絵を描くことや装飾関係が好きな人を募集しています。